

常滑で17日多賀神社大祭

常滑市の春祭りシーズン開幕を告げる苅屋地区の多賀神社大祭が近づいた。「勇み囃子」や「巫女舞」を演じる子どもたちの練習も熱を帯びている。地区の勇み囃子が復活して今年で十年目を迎え、十七日の本番は百人ほどの祭りの列が、苅屋公民館から神社までの六百メートルをにぎやかに練る。

(福本雅則)



音をおはやしに合わせるのが難しい。しっかりと聞いて間違えないようにしたい」と表情を引き締めていた。

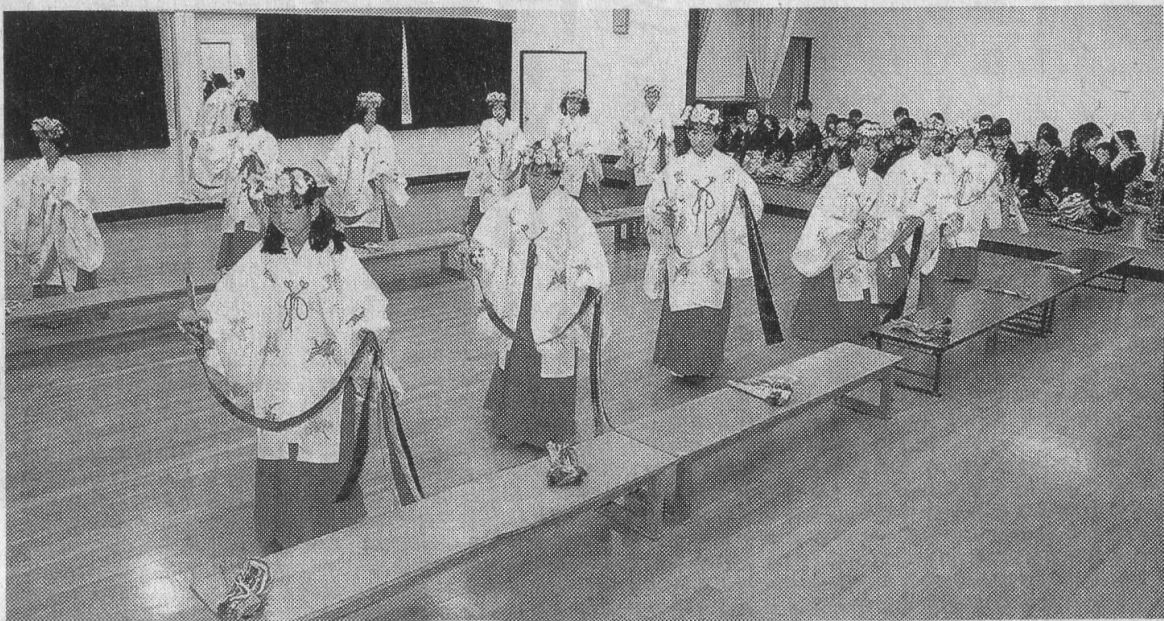
大祭当日、行列は午前九時ごろに公民館を出発。午前十時から神社で巫女舞があり、神前に勇み囃子を奉納する。

児童らけいこ

勇み囃子は一九六六(昭和四十一)年を最後に、担い手だった青年団の解散で途絶えた。復活を望む声に応え、十年前に保存会が発足。はやしの笛や太鼓を奏でた経験のある人が曲をCDに吹き込み、地元の子どもたちに伝承してきた。

今年は小学三～六年の四十五人が、一月中旬から週二回ずつ練習。保存会の指導者と十曲余を、おさらいしている。五、六年の女子六人ずつが「浦安の舞」を演じる巫女舞も、笛と太鼓に笏の板を加えた生演奏で披露する。初めて巫女舞に参加する西浦南小五年の岩田夏奈さん(こ)は「舞は大丈夫だけど、鈴の

「巫女舞」も「浦安の舞」生演奏で披露



巫女舞と勇み囃子の練習に励む子どもたち＝常滑市苅屋町の苅屋公民館で